人権・同和教育会報

21世紀を人権の世紀にしよう！

きずな

第99号
2023年2月1日発刊

発行元：四国中央市人権教育協議会　〒799-0497 四国中央市三島宮川4-6-55
電話：0896-28-6028　E-mail：jinkyo@city.shikokuchuo.ehime.jp

人権ポスター

土居高等学校　1年A組　河野（こうの）　紋芽（あやめ）さんの作品

作者からのメッセージ

私は、人生の中で、「笑顔」であることが特に大切だと思っています。ちょっとしんどい時も落ち込んでいる時も、「笑顔」でいることで良い流れも巡ってくると思っています。

また、「笑顔」は連鎖して、周りも「笑顔」にする力を持っていると感じています。今回はそんな「笑顔」の力を、蝶々がみんなに届けるイメージでポスターを描きました。このポスターを見た人が「笑顔」で幸せな日々を過ごせたらいいなと思います。

今月の主な記事

1ページ　人権ポスター
2～3ページ　令和５年度　新宮地域人権のつどい
4ページ　人権メッセージ・編集室から

人権教育協議会
ホームページ
ＱＲコード

人権メッセージ

「いつもの生活」

三島小学校　五年　北村（きたむら）　颯祐（そうすけ）

ぼくは、いつもどおりの生活がすてきだと思います。いろいろな人に、いろいろなあいさつや話をしている毎日が、一番楽しいんだと思います。いいこともいやなこともある毎日が続くから、毎日の生活を楽しめているんだと思います。友達と遊んだり話したりできる、いい毎日が続くとうれしいけれど、やりたいことができなくて、にげ出したい時もあります。それをあきらめずに、がんばり続けるすがたが一番すてきだと思います。

「新型コロナウイルス感染症に関する差別」

中曽根小学校　六年　井川（いかわ）　実奈子（みなこ）

私は、幼稚園まで東京に住んでいた。去年のゴールデンウィークに、感染症が始まって以来、久々に友達に会いに行った。東京へ行ったので、念のため学校を二日ほど休んだ。その話を東京の友達にするとおどろいていた。東京という場所が、危険な場所として地方では扱われていたからだ。その時は当たり前のことだと受け入れていたが、知らない間に差別的な考えを持っていたことに気付いた。これからは自らの差別心に気付き、差別をなくす生き方をしていきたい。

「スポーツを通して考えたこと」

豊岡小学校　四年　西村（にしむら）　礼（れい）

夏休みに新居浜市でサッカーの試合がありました。その試合に台湾のチームも来ていて、二試合目にそのチームと試合をしました。試合をしていると、何をしゃべっているのか言葉が分からずきんちょうしましたが、サッカーのプレーの仕方やボールを追いかける姿は、ぼくたちと同じで、サッカーが好きだという気持ちはいっしょだと思いました。目の色や髪の毛の色、皮膚の色、言葉は違っても、みんな同じ人間だと感じました。

編集室から

八十五歳になる母は、家庭菜園が大好きです。

その母が一年ほど前から、支柱の立て方が不揃いであったり、「水をやったかしら。」と何度も聞いたりするなど、今までの行動からは考えられないことが増えてきました。私は不安になり心が落ち着きませんでした。

市の地域包括センターを紹介され、本人の状態や家族や周りの人が心配していることを伝え、今後の相談をしました。今は安心して生活をしています。

この冬は、ソラマメを種から育てています。母は、世話をしながら、毎日の生活を楽しんでいます。「ソラマメができたら、一緒に食べようね。」と言う母の笑顔を見ると、うれしくなってくる私です。

「誰か」のことじゃなく、困った人がいたら迷わず手を差し伸べられる人になれるような人権に対する理解が大事だと感じた一年でした。

昨年六月に可決し、令和六年の今年一月一日に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」。

今年も、一人ひとりの尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるようなまちであってほしいと願い、母の笑顔と共に過ごしていきます。

（K・M）

家族で回覧して下さい